

『スペシヤルオリンピッククスと私』

朗読者 有森 裕子

01

みなさん「スペシヤルオリンピッククス」をご存知でしょうか？
今日は、私がスペシヤルオリンピッククスと関わって感じてきたこと、学んできたことについてお話ししたいと思います。

10

スペシヤルオリンピッククスは、障がいのある人たちのスポーツという点では、パラリンピックスとは共通しています。
パラリンピックスは、障がいのあるトップアスリートが出場する競技大会であるのに対して、スペシヤルオリンピッククスは、知的障がいのあるアスリートが参加するスポーツ団体であり、オリンピック、パラリンピックスと同じように、四年に一度、夏と冬に世界大会が開催されます。

20

参加するアスリートたちがスポーツを通して、チャレンジし、できる喜び、生きる楽しさを感じてもらいたい。また、その家族や仲間たち、地域の人たちもその思いを共有し、もちえる才能の可能性をのばすことで、共に社会に共生共存できるようにというものです。

日本では一九九四年（平成六年）に始まり、約八千人のアスリートが全国各地で活動し、その家族やサポーター、ボランティアなど、活動の輪が広がっています。

私も二〇〇二年（平成十四年）からサポーターとして参加し、二〇〇八年（平成二十年）から理事長を務めています。タイムを競い、順位を競い合うスポーツの世界で育ってきた私にとって、みんながメダリストというスペシヤルオリンピッククスは新鮮でした。

勝つこともスポーツでは大切ですが、参加して最大のベストを尽くすことも大切。みんなが自分の力を信じ、支え合い、チャレンジを続けること。そのことで、みんなが互いを尊敬する。それがスペシヤルオリンピッククスのひとつの精神なのです。たくさんのチャレンジが、毎日、世界中で行われ、そのチャレンジの輪が広がっています。

アスリートのチャレンジが、家族、ボランティアやサポーターを変えていきます。ともに育っていく学びの場であり、チャンスをもたらすことの幸せをみんなで感じる場でもあるのです。

日本でも、一人でも多くの方にスペシヤルオリンピッククスに関心を持ってもらい、共に生きるということ、その素晴らしさを実感してもらいたいと思います。